

横井地区最近の稲作

よこいファーム 組合長 高崎 文夫

平成15年JAIにしみの営農経済センターの指導による「ぎふクリーンひとめぼれ栽培」が始まりました。ぎふクリーンは、エコヘルシー(減肥・減薬:50%減)・早場米(8月収穫:台風襲来前)の特長を持っています。一方、美濃地方の土壤にマッチしたハツシモは、昭和25年頃から栽培が始まり改良を重ね大粒で寿司米として市場性が高い。6月の梅雨時に田植をし台風時季を経て霜の降る頃(10~11月)に収穫され食味性が高く人気があります。横井地区では、台風時季前に収穫する“ひとめぼれ”と、台風後の“ハツシモ”が栽培されています。ひとめぼれは、毎年ふれあい夏祭りに“よこいファーム”から予約販売されます。納入時期は、9月下旬~10月上旬になります。 ご愛顧宜しく申し上げます。



H30. 狂俳の奉燈までの流れ (抜粋)

3	4	5	5	6	6	7	7	7
/	/	/	/	/	/	/	/	/
18	22	5	12	7	30	10	11	14
投句 課題 発表	投句 締切	第一回 選句	第二回 選句	短冊 清書	俳画 合わせ	狂俳 清書	行灯 作り	奉燈

狂俳保存会の皆さんを始め、多くの区民の皆さんのご協力に支えられて、伝統文化は守られています。



皆さんの協力による
俳画合わせ



行灯作り

地藏菩薩堂例祭・狂俳奉燈

7月14日(土)



次ページへ



永徳寺住職の読経



住職の読経と共に合掌(行灯に囲まれて)

揖斐川町で 38.8℃の日本最高気温を記録したこの日、14時からの準備作業は、区三役・当番班・協議員・狂俳保存会の皆さん方により順調に進められ、18時からの地藏菩薩堂例祭も滞りなく開催されました。体調すぐれぬ永徳寺住職さんが心の籠った読経を奉納され、次いておもしろ文芸の開巻から祭りへと盛り上がりました。

